



毎日、暑い日が続いています。暑い夏、楽しいことが沢山あり、エネルギーに過ごしたお子さんたちも、夏の疲れが出てくる頃です。睡眠・休息栄養を十分とって残暑も元気に乗り切りましょう。

さて、9月9日は、「救急の日」です。普段なかなか気にしていないと思いますが、救急箱の中身はそろっていますか？ 薬は期限が切れていませんか？ 再度確認してみましょう。ちなみに、救急箱に入っていると良い物は、体温計・絆創膏・包帯・ガーゼ・綿棒・毛抜き・はさみ・湿布薬・常備薬などです。いざという時に慌てないように、取り出しやすいところに保管しておきましょう。

覚えておきたい☆簡単な応急手当て

すり傷・切り傷



応急手当て

①傷口を流水で洗いましょう

傷口を水道水でよく洗い、砂などの異物や細菌を取り除きます。

多少出血しても、十分洗い流します。

②洗い流したら水分を拭き取りましょう

③傷口に被覆保護材を貼りましょう

救急絆創膏と似ていますが、それより少し値段が高めのガーゼがついていないものになります。



こんな時は病院へ

- ・顔の深いすり傷や頭や目の近くの切り傷
- ・いつまでも傷口がジクジクしているとき
- ・いつまでも痛がったり、激しく痛がる時
- ・土や石、ガラスが傷口に入り、取れないとき

注意

消毒液やガーゼの使用は避けましょう！

傷口には滲出液という透明の体液がにじみ出てきます。この体液に傷を修復し皮膚を再生させる様々な物質が含まれています。消毒薬は感染は防ぎますが、傷を治す細胞を殺してしまったり、ガーゼはこの液を乾かしてしまいかえって治りを妨げてしまいます。

やけど



応急手当て

患部を流水で 10~20 分間冷す
冷すことでやけどの進行を抑え、
また痛みを緩和します

こんな時は病院へ

- ・顔・頭・指の関節部分のやけど
- ・水ぶくれができたとき
- ・皮ふがジクジクしているとき
- ・広範囲のやけどや皮ふが黒くこげたり、白く変色するなどひどい時は、すぐ病院へ！



注意

- ・やけどした皮ふが服や手袋などにくっついている場合は、無理にはがさず、服の上から水をかける
- ・アクセサリーは冷しているときに外す
- ・診察してもらうまでは薬をつけない
- ・水ぶくれはつぶさずガーゼなどで保護し受診する

はしか（麻疹）患者増加中

今年度のはしかの発生状況は 8 月 6 日現在、169 人です。「な～んだ少ない」と思われた方もいると思いますが、昨年度 1 年間の発生数を上回っています。発症者は、10~50 歳代の人です。愛知県内での発生は報告されていませんが、遊びに出かける機会がまだまだ多い時期です。知らないうちにかかる場合もあります。

私も半世紀ほど前、発熱と発疹のため 2 週間保育園を休みました。お友達とも遊ばず畑についていき車内で一人で淋しく遊んでいたのを思い出しました。

はしかは、ワクチンで予防ができる病気です。お子様のみならず保護者の方も今一度麻疹ワクチン接種の確認をしましょう。また、年長児は、MR（麻疹・風しん混合）ワクチン 2 回目の接種対象です。接種を忘れないようにしましょう。

9月の健診のお知らせ

- 4か月児健診（受付 9:00~10:30）
毎週火曜日：5、12、19、26日
- 1歳6か月児健診（受付 12:50~14:00）
毎週水曜日：6、13、20、27日
- 3歳児健診（受付 12:50~14:00）
毎週木曜日：7、14、21、28日

場所：保健所・保健センター
（中野町字中原「ほいっぶ」内）
問合せ先：☎39-9160

※対象者の方には、ご自宅へ健診日の1か月前に健診票を郵送します。
ご案内の日時に健診を受けてください。

